

玖 珠 町 商 工 会

機関名	玖珠町商工会			
所在地	大分県玖珠郡玖珠町大字帆足 1 2 5 - 1			
電話番号	0 9 7 3 - 7 2 - 1 2 1 1			
地域概要	(1)管内人口	1万9千人	(2)管内商店街数	5 商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数	2 商店街	(2)会員数	2 商店
	(3)空店舗率	7.3 %	(4)大型店空き店舗数	1 店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成 13 年度 空き店舗対策事業 チャレンジショップ、イベント
 総事業費 14,427 千円

【事業実施内容】

1. 背景

玖珠町は大分県の北西部にあり、特徴的な山々に囲まれた玖珠盆地に広がる景観豊かな町である。

町の主要交通は、東西を結ぶ JR 久大線、国道 210 号線、南北を結ぶ国道 387 号線があり、二つの主要な国道は町の中心部にて交わっている。また、平成 8 年には九州横断自動車道のインターなども開通し、他地域へのアクセスや物流の利便性が向上している。

人口は平成 12 年の国勢調査では 18,988 人であり、減少傾向、平成 13 年 4 月時点での高齢者比率は 26% と比較的高い。

(1) 玖珠町の商業

玖珠町の中心にある森駅通り商店街、春日町商店街は、国鉄時代の久大線の需要拡大や官公庁、医療機関等の中心地として発展してきた。

(2) 空き店舗事業の経緯

国道および高速道の発達により、これら旧商店街の立地条件は著しく不利となっただけでなく、郊外への大型店の出店が相次ぎ旧商店街の集客力は衰退した。

さらに近年では、店主の高齢化、転廃業等の影響で空き店舗が増加し、活力がさらに低下してきたため森駅通り商店街協同組合、春日町商店街協同組合ではそれぞれ活性化のための事業を行ってきた。空き店舗対策事業も、これら活性化策の一環として、取り組まれた。



位置図（玖珠町 HP より）



商店街の町並み（玖珠町商工会 HP より）

2. 事業内容

(1) 事業の目的

- 1) 地域商店街の空き店舗を解消し、従来からの商業集積地における商業機能等の充実・強化を図る。
- 2) 上記により、周辺住民に与える影響を分析、評価する。
- 3) 低迷する地域商店街に活力を与え、今後の活動に展開していく。

(2) 事業コンセプト

「童話の里・田園都市・玖珠町 やさしさと癒しの街づくり」

「童話の里」の玖珠町らしく、子供や高齢者・障害者に優しく、また、私たちの暮らしを取り巻く食生活や環境にもやさしい商店街として地域住民に親しまれる街づくりをする。

(3) 事業内容

チャレンジショップ商店街事業、イベント事業、情報発信事業、調査研究事業

区	分	店 舗 数	内 空 き 店 舗 数	空 き 地 数
森駅通り商店街		1 2 0	1 4	1
春日町商店街		1 0 3	5	2
合計		2 2 3	1 9	3

(4) 各事業実施概要

1) チャレンジショップ事業

事業の目的

- ・ 商店街に不足している業種を中心に新規開業者を誘致する。
- ・ インフォメーションセンター、ミニギャラリー、パソコンの設置により、商店街のコミュニケーション機能の提供と利便性の向上を図る。

事業概要

- ・実施期間 平成 13 年 10 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日
- ・事業の方法 チャレンジショップ事業部会および両商店街協同組合において実験店舗の募集・管理・運営を行う。
- ・募集店舗数 募集 10 店舗 その他フリーマーケット会場、駐車場
- ・募集方法 新聞・新聞折込、ホームページ等
- ・出店者 「古本・CD ショップ」「喫茶店」「ワンコインショットバー」「お食事の店」「くすくすカードイベント会場」「惣菜の店」「飲食店」「フリーマーケット会場（駐車場）」

2) イベント事業

事業の目的

- ・商店街への集客を高める。
- ・来街者の回遊性を高める。

事業概要

- ・実施期間 平成 13 年 10 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日
- ・事業方法 イベント事業部会および両商店街協同組合の連携による開催および業者への一部委託。
- ・実施イベント
 「オープニングイベント」 オープニング式典、ハロウィンイベント、全店オープニング式典
 「ふれあいイベント」 クリスマスイベント、フリーマーケット、ミニギャラリー
 「販売促進イベント」 くすくすカード歳末大売出



空き店舗マップ (玖珠町商工会 HP より)

3) 情報提供事業

事業の目的

- ・消費者等来街者への商店街の買い物情報やイベント情報の提供。
- ・観光等の地域情報の提供。
- ・上記による来街者の利便性の向上を図る。

事業概要

- ・実施期間 平成 13 年 10 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日
- ・事業の方法 関係機関・団体等の支援を得て自主開設。
- ・実施事業

「インフォメーションセンター」

パンフ・チラシ・マップ等による商店街情報提供、ビデオ・パンフ等による観光情報提供、担当者による各種案内

「インターネット体験コーナー」

インターネットを利用した情報の収集と提供、インターネットの体験



ホームページでのチャレンジショップ店舗募集案内

4) 調査事業

事業の目的

- ・消費者および来街者ニーズの把握、商店街関係者の意識、本事業の実施効果の測定
- ・今後の活性化に向けた事業展開の一助とする

事業概要

- ・実施機関 平成 13 年 10 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日
- ・事業の方法 調査票の設計・集計・分析を専門業者に委託
- ・実施調査 商店街通行量調査(3回) 消費者および来街者調査(2回) 経営者等商店街関係者意識調査(2回) 上記調査の集計、分析および結果に基づく提案

【 効 果 】

(1) チャレンジショップ事業

- 1) 新規事業者等への事業機会の創出ができた。
 - 2) 商店街における不足業種も補うことができ、店舗の充実が図られた。
- (2) イベント事業
- 1) 商店街に賑わいとふれあいを創出した。
 - 2) 街全体のイメージアップと認知度の高揚が図られた。
 - 3) 既存のイベントを大きく PR でき、今後の事業継承につながった。
- (3) 情報提供事業
- 1) 商店街を情報発信及び情報交流の場として認知させると共に商店街の付加価値を高め、販売促進の一助とすることができた。
 - 2) 小学生から高校生といった若年層の利用が多く見られ、若者が多く来街した。
- (4) 調査事業
- 消費者および来街者のニーズや商店街関係者の意識、商店街の現状等の把握ができ、今後の活性化に向けた取り組みの基礎資料となった。

【課題・反省点】

- (1) チャレンジショップ事業
- 1) 目標の出店者数をクリアすることが先決となっているため出店者の事業計画性を十分に事前指導、審査する必要性があった。
 - 2) 出店者の負担が少ないので安易に退店してしまうケースがあった。
 - 3) 出店者と既存店主とのコミュニケーションが不足しており、今後の課題となっている。(組合に入らない、イベント等への協力が無い等)
 - 4) ショップ選定時に、地域生活者の視点・意見が充分取り入れられていなかった。
- (2) アンケート
- 「要望する施設」について経営者の意見は調査したものの、来街者調査にはその視点が欠けており、来街者のニーズをつかむことができなかった

【教訓】

- (1) 「空き店舗対策は誰のため」という視点を持つ
- 地域生活者、経営者は空き店舗事業に対して現状を打開する大きな期待を抱いている。それに応えるためには「空き店舗対策(商店街活性化対策)は誰のために行うのか」という視点から、十分に検討を行う必要があり、商店街や商店経営者の発想で事業を行うと、地域生活者に失望を与えることとなり、結果、商店街の活性化がなされずに商店街関係者、経営者自身も失望することになる。
- 「商店街は地域生活者のためにあり、地域生活者が商店街を支持してくれるからこそ存続する」という基本を忘れてはならない。
- (2) 事業は継続が力
- 「事業の継続は当たり前」のことであるが、その実、「言うは易し行ない難し」である。しかし、活性化事業は継続することがその効果をもたらすことになる。

【関連URL】

「希望を持って頑張りたい」と意気込みを語るチャレンジショップの新オーナーたち



中心街の空き店舗対策事業 新たに8店開店

不況に立ち向かえ！ 玖珠町

玖珠町商工会の青年会が、町中心部で取り組んでいる「中心市街地空き店舗対策事業」の全店オープン式典が二十九日、町内最長の町商工会館であった。新たにチャレンジショップを開店したのは八店舗。オーナーたちはそれぞれ「希望を持って頑張りたい」と決意を語った。

開店者約二十人が出席。浜田会長が「不況下での新たな挑戦は勇気が伴う。周辺の商店街と協力しながら大きく羽ばたいてほしい」とあいさつ。東貴の激励に続いて、出店者が一人ひとり決意を表明。「一生懸命、頑張りたい」「ロミオの後、顧客が増えることに期待したい」と意気込みをオーナー。行政や商協関係者に対して「資金的なハード面ばかりではなく、もっと町が活気づく方策を」とソフト面の充実を求める経営者もいた。

同事業は「春日町通り、春日通り両商店街が対象。空き店舗十九店のうち十店のオーナーを玖珠郡内から募集。開、開、地元が千五百万円の手前で新規出店を支えた。開店した八店には米価三月まで、十万円を上乗せする家賃を補助する。

チャレンジショップは次の通り（丸カッコ内は代表者）。

【春日町通り西店街】▼ピデオ・書籍販売「メディアアキングタックス」(酒井常雄) ▼飲食店「食卓処」(一井三恵) ▼同フロアワンシ・フレグランス(飯田浩子) 【春日町通り東店街】▼町ポインントカード会(原孝彰) ▼喫茶店・工芸品販売「カフェエリシ」(大塚一徳) ▼飲食店「ブルードルフィン」(中村誠博) ▼書籍販売・飲食店「そらあ・心し屋」(佐藤茂徳) ▼書籍販売「大分通信」(山研英)